

JEG ニュースレター 189号

www.jegschweiz.com

2023年12月28日発行

小さな証

晩秋に里帰りした筆者を待っていたのは臨終の床にいる愛する父親であった。父親を前に胸に去来した思いとは、...

P2



創立30周年記念礼拝

11月26日創立記念礼拝には、創立に携わったスイス人元宣教師を交え、これまで導いてくださった主に礼拝を捧げました。

スイスJEG30周年に想う

我が教会に深い関わりをもち、教会に今も愛の絆で結ばれる欧州と母国日本の兄弟に、創立三十周年記念にあたりご寄稿をいただきました。

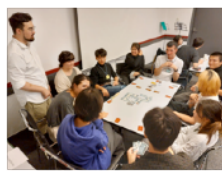
P3



ユティカ感想文集

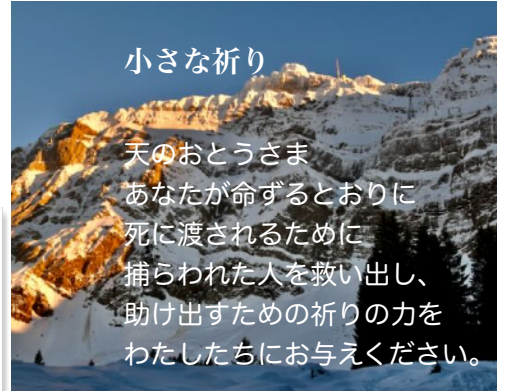
在欧の若き日系クリスチャンの霊的信仰生活に欠かせぬユース・リトリート”ユティカ”がこの秋、デュセルドルフで開催されました。

P4-6



小さな祈り

天のおとうさま
あなたが命ずるとおりに
死に渡されるために
捕らわれた人を救い出し、
助け出すための祈りの力を
わたしたちにお与えください。



イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」
ヨハネ20:21



スイス日本語福音キリスト教会の初回礼拝

1993年11月28日 チューリッヒ州ウスター市クリショーナ教会にて

ちいさな証

今も生きているイエス様

脇山多恵子

スイス日本語福音キリスト教会



主の御名を心から賛美致します。

11月13日(月)午後3時頃、父が8月にコロナにかかり家に帰ることなく91歳で亡くなりました。

日本への里帰り一週間前に危篤という知らせが入り慌てましたが多くの方々のお祈りに主が応えてくださって一か月以上も父を生き

ていただきました。

その後、日本へ行くことができても入院中の父に会うことはできなくて、一度だけリモートで父の顔を見ることができただけで3週間が過ぎました。点滴だけで生かされている状態で回復の見込みはなく、病院が家から遠かった事もあり、近くに移った方が良いのではないかとということで、ちょうど母がいる施設が許可してくれたおかげで生前の父に二度会うことができました。

一度目は病院から施設へ移動した日で父の変わり果てた姿にショックを受け、その時父は朦朧として理解もできないようでした。そして二度目は九州に行く前日に、あと長くて3日~7日と聞かされて最後に主人と一緒に会いに行くことができました。酸素吸入をしている父の耳元で「お父さん、多恵子だよ、わかる？」って聞いたら深く頷いてくれました。それから父の足を二人でマッサージして父の手を取りお祈りしました。

「また会おうね」って言うとお別れをしましたが、父の目にはうっすらと涙がにじんで、何かを話そうと口を動かしてくれました。九州に行ってから毎日もう私達にはどうすることもできないから父に神様が直接語りかけてくださるようとお祈

りました。そして父は八日間生かされ静かに息を引き取りました。

最後の時には間に合いませんでしたが、死後、父は千葉の実家に二日間帰って来られたので、まるで眠っているように穏やかな表情を見ながら、一緒に過ごすことができました。神様の恵みにより日本滞在中に生きている父に会わせていただけてその上お葬式にまで参列することができて、すべてを益としてくださる主に心から感謝しています。

ただ父とこの世ではもう二度と会うことができないのだと思うと、心にポツカリと穴が開いてしまって、覚悟していたとはいえ、日本に行っても温かく迎えてくれる父がいないということが、これほど辛く悲しい事とは思いませんでした。ことあるごとに思い出しては涙があふれ、スイスに帰ってから大声でワソワソ泣きました。



お葬式の時、お坊さんのお経を聞きながら、心の中はこんな心のこもっていない、ただ本を読んでいるだけの式は、なんて虚しいのかと覚めた思いで参列しその中であって父も「俺は今生きているよ」って言って、笑って見ているような気がしました。父の意識が朦朧としている時、きっと神様が語りかけ、直接父を導いてくださったのだと、

父の安らかな顔を見て思いました。何もできなかった娘で後悔ばかりが残りますが、父のことを通して、なおさら福音を語ることの大切さを思わされています。

自分がまだこうして生かされているのは、一人でも多くの方に、唯一絶対の創造主であられるお方がどんなに人を愛し、素晴らしいお方であるのかを知らせるためだと確信しているので、今も生きてイエス様という救いの道を用意し、働いてくださっている神様を崇め褒め称えつつ、最後まで従い続けていきたいと思ひます。



1、スイスJEG創立30周年記念礼拝

11月26日、当教会は、創立30周年を迎えました。30年前に、この地に住む日本人の魂の救いのために、母国語で主を礼拝する教会を立て上げる重荷を負い、主に祈り求めてくださった牧師、宣教師、兄弟姉妹をお迎えして、63名の兄弟と共に礼拝を捧げました。



主は祈りに応えて、教会を立ち上げ、今日まで守り導いてくださいました。絶えることなく牧会者と働き人が与えられ、そして共に礼拝し、主のもとで愛し励まし合う多くの兄弟姉妹と後を継ぐ若い世代が与えられ、今日を迎えることができました。

記念礼拝/愛餐会のショートビデオ

<https://www.youtube.com/watch?v=qiRLDWnwmcM>

また、創立記念として記念誌「スイス日本語福音キリスト教会・三十年の恵み」が出版されました。(148ページ、ハードカバー 210X297mm)この記念誌は以下のURLからPDFファイルをダウンロードしてご覧いただけます。

https://drive.google.com/file/d/1xcY1YkBW3r7mqM8Sj8Ft2Y64XzWmSuWB/view?usp=drive_link



2、スイスJEGのロゴが完成

スイスJEG創立30周年記念事業として、ロゴ案を教会員から募集し、検討の結果、右の案が採用されました。

赤い箇所は聖書と十字架、右のスイスアルプスは三位一体を表します。地上では、絶えずイエス様に倣い、御国の到来を待ち望むべく、頂を見上げながらアルプスを登はんするように一歩一歩歩む。それがJEGスイスの群れである。



スイスJEGクリスマス礼拝のスナップ 17.Dec.2023

3、デュッセルドルフ/ユティカが開催

10月13-15日にかけて、定員を超える約30名の参加者を欧州各地から集め、「あなたは高価で尊い」をテーマに、デュッセルドルフ・ユティカが開催されました。このユースリトリートには、10代前半から30代まで幅広い年代(スイスJEGからも7名)の若者が参加しました。

デュッセルドルフ日本語教会のヘーグレ牧師による2回のメッセージのほか、恋愛・結婚の学び、賛美、ゲーム、デュッセルドルフの街散策、バーベキューなどと盛りだくさんなプログラムで、信仰の友と神様の祝福を共に味わう時となりました。実行委員のメンバーと神様に感謝します!(井ノ上歌歩記)



なお、このニュースレターにはユースが自ら編集した感想文集が添付されていますので是非お読みになってください。

冬のスイス・ユティカは12月27-29日に開催の予定です!

4、第41回ヨーロッパ・キリスト者の集い第一信

2024年7月25日(木)から30日(日)までシュトゥットガルト郊外のシェンブリックで開催される第41回ヨーロッパ・キリスト者の集いの第一信が12月21日に新実行委員会によって発信されました。"時がある"をテーマに伝道者の書3章1節から各講演が予定されています。申し込みは、4月上旬に開始されます。"集い"に関する最新情報はオフィシャルHPをご覧ください。<https://www.europetsudoi.net/>



5、ドキュメンタリー"ダマリズ"のドイツ語版が完成!

アートゥア・クンツ先生ご夫妻の長女ダマリズちゃんの"悲劇"を描いたドキュメンタリー映画"ダマリズ"は、日本GNTVにより放映され大きな反響を呼びました。この感動的なドキュメンタリーを伝道のためにドイツ語版も作ってほしいとの要望が寄せられ、スイス・日本で関係者が一年以上の時間をかけて、遂にドイツ語スーパーの入った"ダマリズ"がこの度完成しました。これはYouTubeでもご覧いただけます。日本語がわからない兄弟にも視聴いただけます。https://youtu.be/dXpks2OIVvQ?si=H3flrhoEd6fWd6_z



6、世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています!

工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ハーベスト・タイムズ・ミニストリーズ月報、森ゆり空レタ配達人、ミッション"宣教の声"が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄弟は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。

スイスJEG 30周年に想う

主が共にいまし

フーヴェ久栄

ハノーバー聖書を読む会

素晴らしい30周年記念誌のお礼の御挨拶が遅れまして申し訳ございません。ありがとうございます。

クンツ先生、田辺先生御夫妻、懐かしい方々を拝見しつつ、主がいつもスイス日本語教会と共に居まし、お導き、祝福下さって、次世代に繋げていって下さる事、今後もヨーロッパ日本人キリスト者の要に成るようスイス日本語教会を守り導いておられる事を拝見し、感動しました。ありがとうございます♥



ので問題ないのですが、前の2例の影響で、東京での宣教活動は簡単ではありません。

スイス時代のことを思い出すと、スイスにいる日本人ということだけで知らない日本人に声をかけることが許され、例えばお節介であっても人助けをすると相手から感謝され自然に宣教活動ができるという恵まれた状況でした。

2人での東京生活は始まったばかりですが、私たちが再び善きサマリア人になれるようにお祈りください。



日々の戦争の報道に心騒ぐ中、スイスの清い雪山に心が静けさを頂きました。感謝します。

スイスの兄弟姉妹の素晴らしいお働きに益々主の祝福がありますようお祈り致します。感謝と共に♥



脇山姉妹、クンツ元宣教師ご夫妻と 私たち家族

東京でも善きサマリア人になれるか？

加藤雅也

在東京

祝福された設立30周年おめでとうございます。1993年から2年半のスイスJEG時代の良き思い出が智美（さとみ）と私の人生の糧になっています。



私は、ウクライナ侵攻が始まった2022年2月24日にマレーシアから帰国し、42年ぶりの東京生活が始まりました。戻ると東京育ちの自分は自然と東京の人ようになり、知らない人には話しかけなくなりました。

東京で他人に話しかける人は、怪しいセールスで勧誘をする人、“宗教”を勧誘する人、道に迷った高齢者、困った観光客ぐらいです。もちろん、後の2例は近寄って助ければ良い

神の書物に書かれた歴史

ローレンツ・ベルント&真理

ハノーバー聖書を読む会

スイス日本語福音キリスト教会のみなさん、創立30周年おめでとうございます！

スイスJEGの教会員の皆さんと関係者の方お一人おひとりの歴史は、神の書物に書かれている歴史そのものです。これまでの間、成長し築き上げられた主の教会は主の目になんと尊く美しいものでしょう。

そこにある主の栄光をほめ讃えます。ずっしりと重いこの記念誌を主ご自身が手に取ってご覧になり喜んでおられるようです。



こういうわけで、わたしも、あなたがたが主イエスを信じ、すべての聖なる者たちを愛していることを聞き、祈りの度に、あなたがたのことを思い起こし、絶えず感謝しています。

どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、心の目を開いてくださるよう。

そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるよう。また、わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるよう。エフェソ1：16-19



スイスJEG 30周年に想う

そこには喜び、感謝、希望があり、大いなる神の祝福があります。外地生活において、私たちが経験する課題の一つは言語です。人が一番心を開き、心深く入る言語は、やはり母国語である第一言語です。その意味で、神のみことばが30年間も説き明かされてきたことは、なんと主の恵みでしょうか。

スイス日本語キリスト教会はその大切な使命を、30年間も忠実に果たしてこられたことに敬意を覚えます。そして、これからもみことばを宣べ伝える教会として、前進されますようお祈りします。重ねて、貴教会の創立30周年おめでとうございます。

何という主の恵み

黒田禎一郎

ミッション・宣教の声 主幹

スイス日本語キリスト教会創立30周年、心よりお祝い申し上げます。御地において、キリストのからだである教会が誕生して30年、これまでどれほど多くの方々が魂の救いと、心の癒しを受けてこられたことでしょうか。主である神の御名を賛美します。

世界のグローバル化は急速に広まり、現代では海外で活躍する日本人は珍しくありません。その中でスイス日本語キリスト教会の存在は、在住邦人にとっては心のオアシスでしょう。神のみことばが語られ、キリストの愛が伝えられる教会には主がご臨在くださいます。



日本との架け橋30周年

緒方美知子

バイブルコーヒープレーク主宰 ウィーン在住



こころより30周年記念おめでとうございます！

スイス日本語福音キリスト教会ニュースレターを通してスイスとヨーロッパに在住されるクリスチャンたちの生き様、信仰に触れ鼓舞され続けてきました。皆

様の幅広い広報活動、ヨーロッパ各国を網羅し日本との架け橋30周年になっていただき感謝です！

スイス各地からだけではなく国境を超えて母国語で主を礼拝し、交わる神の家、30年の間そのような場所を提供され続ける舞台裏には多くのご苦勞、涙、戦いもあられたことと思います。「私の神によって城壁を飛び越えます」

(詩篇18：29)にありますように、今いくつもの壁を超え、大自然の中でひとつの山の頂上に立たれ主の栄光を賛美されている…そんな光景を思い浮かべます。

ヨーロッパの中で素晴らしい祝福のひとつの拠点として、これからも神様の大きいご計画の中でヨーロッパや世界に向けてひとつの光として主の栄光を放つ恵みの発信拠点であり続けていただけることに期待と感謝しつつ詩篇26：8をお祝いのことばに代えさせていただきます。

「主よ、私は愛します。あなたの住まいのある所 あなたの栄光のとどまる所を。」

スイスJEG 30周年に思う

主への感謝、
JEGへの感謝

矢部 晶宏

オーストリア OM宣教師

スイスJEG30周年、主の尊い御名をほめたたえます。心からおめでとうございます。

「今まで行った国でどこが一番良かった？」と聞かれると、いつも迷わず「スイス」と答えます。それは、食べ物がおいしいからでも、人が優しいからでも、素晴らしい文化があるからでもありません（そのどれも然りですが）。2005年、友人を訪ねに初めてスイスに赴いた際、青天の霹靂、御ことばとイエス・キリストの臨在がリアルに迫ってきました。雷に打たれたような衝撃、人生が一変する体験でした - ドイツ語圏での福音宣教の召しとして受け取りました。



その時出会った松林さんを通して、スイスJEGの存在を知る祝福に与りました。スイスで唯一、日本語で礼拝を捧げられる教会。今まで礼拝には数えるほどしか出席できていませんが、私の心の中に、いつも特別な場所としてあり続けています。

2008年コンスタンツ大学に留学した際は、原さん宅でのバイブルスタディーでお世話になり、2018年の春には、礼拝メッセージを取りつがせていただく特権に与りました。日本で通勤中、マイヤー先生のメッセージから御ことばの麗しさに心奪われることも多々ありました。

そして記憶に新しいのは、2021年、イスラム教系難民・移民宣教のため、幼い子ども2人を連れて家族でオーストリアへ移住して間もなく、妻の幸恵のがんが見つかった時のこと。私たち家族とほぼ面識がないにも関わらず、約1年半に渡る壮絶な闘病生活の間、自発的にスイスJEG祈り手の方々が、御前に心を注ぎ出し祈ってくださいましたことです。今思い出しても目頭が熱くなります。

主のあわれみにより、妻の病も



寛解しました。本園さんをはじめ、祈りの有志（勇士）の皆さん、改めて本当にありがとうございました。

胸中に去来するスイスJEGへの思いを限られた文字数で綴ることは至難の業ですが、どうしてもお伝えしたいのは、『感謝』。主に感謝を捧げ、スイスJEGの皆様へ感謝をお伝えします。

これからも主の優しさ、真実さ、愛と赦しを流し出す希望の教会として用いられ続けることを固く信じ、主の祝福をお祈りしています。30周年心からおめでとうございます。

大きい日本語キリスト教会の存在意義

村岡 崇光

オランダ日本語聖書キリスト教会



皆さんの教会では最近創立30周年記念を祝われたとのこと誠におめでとうございます。お祝いのビデオを拝見しても、皆さんお一人がお喜びしておられるのがはっきり伝わってきます。

スイスに日本人が何人ぐらいいらっしゃるかわかりませんが、皆さんの教会に集っていらっしゃる方々が結構いらっしゃるようにお見受けできて嬉しく思います。

ヨーロッパの中でも、スイスに短期あるいは長期滞在していらっしゃる方々、また短期間の観光旅行者もかなりの数でしょうから、日本語キリスト教会の存在意義も大きいと思います。

スイス日本語福音キリスト教会が今後もその意義を発揮し続けるよう祈ります。



祈り合い助け合える喜び

シュトゥットガルト日本語教会

スイス日本語教会の皆さま、創立30周年、心からお喜び申し上げます。主の祝福の中におられる皆さまとスイス日本語教会の30周年をお喜びしたいと思います！

ヨーロッパにある小さな、しかし主に愛されている日本語教会達が、それぞれに活動しながらお互いに祈り合い、助け合える喜びは特別です。これからまた30年、ヨーロッパ日本語教会の主にある導き手としてスイス教会が益々祝われますように祈りつつ。



スイスJEG 30周年に想う

そして、この度の記念誌ですが、文章を読んで今まで知らなかったスイスJEGの昔の歴史に触れることができました。この大作の作成に携わった兄弟姉妹の方々に、そして主に心より感謝申し上げます。また新しいロゴもおめでとうございます！最初は図の下の方が何を意味するのかよくわからなかったのですが、聖書を開いたイメージだとわかりました。聖書の大切さをとてもよく表していて、素晴らしいと思います。

30年という長きにわたり礼拝を守られてこられたということは、主イエスがいつも共にいてくださったことの証しだと思います。どうぞこれからもスイスJEGにさらなる祝福がありますように。

一人一人が宣教の担い手

馬場晶子

ロンドンJCF

知らなかったスイスJEGの歴史

佐々木久幸

カールスルーエ聖書を学ぶ会

この度は創立30周年おめでとうございます。スイスJEGの礼拝には今年二月に初めて参加させていただきましたが、主イエスの大きな愛につつまれた教会であるとの印象を受けました。



温かい雰囲気の中、皆様と共に賛美し礼拝できましたことをあらためてお礼申し上げます。スイスにある唯一の日本語福音教会として、中には2時間以上もかけて来られている会員の方がおられるようで、そのこともわかるような気がしました。

礼拝はバイリンガルで行われており、内容豊富なニュースレターをインターネットを通して見ることも可能です。また欧州キリスト者の集いや聖地旅行など様々な活動を積極的に行っておられることも、スイスJEGが素晴らしく祝福されていることの証しだと思います。

この度は創立30周年おめでとうございます。ヨーロッパの諸教会の中で常に中心的存在としてここまで教会を率いてこられたことを主に感謝申し上げます。教会の設立から30年経ち、信仰を受け継ぐ新しい世代が与えられていることを知り希望が与えられ、励まされます。教会の歴史は福音の種まき、収穫、種まき。。の繰り返しですね。

しかし、それは徒勞に終わることがありません。これからもスイスを訪れる多くの旅行者、留学生、研究者、駐在員の方々が真に生きておられる創造主なる神を知り、大きな神様の見取り図の中で現実世界に生きる自分の存在の意味や目的を発見されることを願い、祈っています。

そのきっかけを与えるスイス教会のお一人一人が宣教の担い手として（働きの大小を問わず）尊い任務を果たしていけますように。総責任者は神様であり、そのお方がイエス様の再臨までにそれを完成させてくださいますから「ピリピ1章6節」落胆せず、希望を持って忠実に歩む僕でありたいものです。

来年2024年に創立50周年を迎える姉妹教会であるロンドンJCFともさらなる協力関係を持って共に宣教に励んで参りましょう！



スイスJEG 30周年に思う

全く迷わずにJEGへ!

ヘス明美

スイス日本語福音キリスト教会

スイス人の主人との結婚を機に、スイスへ来たのが28年前。大学の先輩から「スイスに日本語教会(JEG)が出来たらいいから行って見たら?」と言われて、ウスターという町の名前だけを聞いて、日曜日に電車に乗って出かけました。

沢山の日本人がJEGへ行っているのだろうと想像して、住所も電話番号も知らずに出かけ、ちょうど電車を降りる時、ドアの目の前に立っていた2人が日本語でお喋りをしていました。勝手にJEGへ行くのだろうと思い、声も掛けずに後を付いていったら、無事JEGへ到着しました。



28年前、高梨夫妻と共に

当時礼拝は10人程の人しか居なくて、しかもみんな車で来ていたので、電車で来ていたのはそのご夫妻と私だけでした。神様の豊かな導きで全く迷わずにJEGへ行けた事に心から感謝でしたし、そのご夫妻は私の隣町に住んでいたのだから毎日のように共に楽しい時間を過ごすことが出来ました。

ご夫妻は1年間だけの駐在でしたので、すぐに日本へ帰国してしまいましたが、その後も一時帰国の際に日本で楽しい交わりを続けてきました。今回は28年ぶりにご家族でスイスへ来て下さったので、JEG30周年記念礼拝へ共に出席するという恵みに与れたのも、嬉しいサプライズでした! 滞在中素晴らしい交わりを持たせた事にも、神様とJEGのおかげと大変感謝しています。有難うございました!

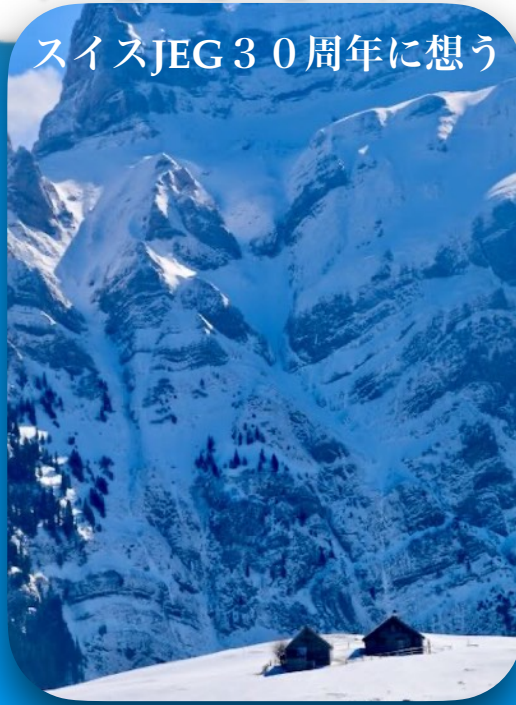
JEGでの溢れる恵み!

高梨友子

滝山聖書バプテスマ教会

28年前の6月に主人と結婚した時、10月から1年間、主人が海外研修に行く事は決まっていたのですがまだこの国は分かりませんでした。世界各国の中からスイスに決まり2人で大喜びしました。主人が28歳、私は27歳でした。

初めてJEGに行った時の事はよく覚えていますが、後ろから明美さんが、付いて来られていたのには気が付きませんでした。神様のなさる事は本当にいつもミラクルですね。少人数の小さな集会でしたが、本当に温かく迎え入れて下さり若かった私達を歓迎して下さいました。主人は早々に司会の奉



仕を与えられていたので1年後には居なくなるのに大丈夫かな?と思ったそうです。

クリスマスの時、保育士だった私に紙芝居を読んで欲しいと頼まれた事もよく覚えています。私が日本語で、クンツさんがドイツ語の同時通訳で読んで下さいました。小さな御奉仕でしたが、私にとって、忘れられないスイスでのクリスマスの思い出です。

そして礼拝後のお楽しみの交わりお食事が素敵でした。とても少人数とは思えない程の豪華さに、いつも驚きと感動で一杯でした。皆で、美味しい食事やデザート頂きながら、お喋りするのがとても楽しかったです。

また、「日中は、御主人お仕事で友子さん1人なの?可哀想に、うちに食事時にいらっしやいよ。」と下さり、本当に色々な方のお宅に招いて頂きました。「今日友さんが来るから昨日のうちからじゃがいもを茹でておいたのよ。こんなに美味しそうに出来たからさあ、一緒に頂きましょう!」と言ってロスティを作って下さった方、「さあ、デザートはお庭で頂きましょうね!」とティーセットをお庭に運んで下さった方。

また日本から妹達が遊びに来た時、妹達まで皆一緒に招いて下さり、チーズフォンデュを振る舞って下さった方もいました。またある時は、山登り&ハイキングに連れて行って下さった方も。短い期間だったはずですが、日曜日に限らず、楽しい交わりを沢山して頂きました。1つ1つの思い出が、私達にとってかけがえの無い大切な思い出です。



28年ぶりに当時の勤務先を娘と訪問 あんなに小さかったJEGの群れが、こうして28年後に、驚く程教会員が増え、更に若者達が多く集う恵み溢れる教会へと成長した姿をじかに見ることが出来ました。この記念礼拝に出席して、私が心から願った事は、この場に集われた方々と、1人もあぶれる事無く全員でまた天国で再会したい、という事です。日本とスイスは遠く離れていますが、目指す所は皆一緒です。それぞれ、置かれた場所で、与えられた賜物を活かして主の為に喜んで仕え、天国を目指していけるようにと、願い祈っています。本当にありがとうございました!

創立70周年を迎えた教会

津田和明

東京フリー・メソジスト小金井教会

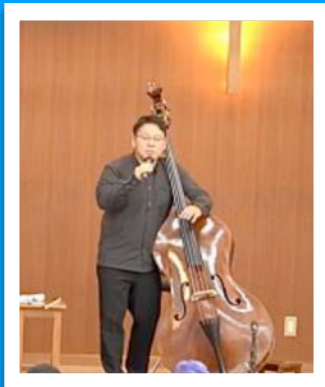
スイスJEG 30周年心よりおめでとうございます。スイスの地で私たちの神様が、この主にある共同体を建て上げてくださり、30年の間、守り支えて、用いてくださったことをおぼえて、主を賛美いたします。

私が仕えさせていただいている教会も今年で教団、教会創立70周年を迎えました。教会の初期から教会を支えてくださった方々の殆どがお亡くなりになり、新しい人たちが増えて、新しいステージへと入っていきようとしています。創立70周年ということで、記念コンサートをさせていただきました。神学校時代の友人で、元ピアニストの牧師を招いて、演奏とお証の時を持たせていただき、100名近い方がきてくださいました。



また、過去の写真をスライドにして見たり、世代を超えた交わりをしたりしました。私も牧会2年目に入り、ようやく自分の働き方が見えてきたかなといったところです。私の仕えている教会は日本ではかなり珍しい主任牧師と牧師夫人以外に、ほぼ同い年の男性牧師3名のチームでチーム牧会をしています。ほぼ同い年の牧師3名が一つの教会で仕えているのはおそらく日本では私の教会だけではないかと思えます。また、それぞれに違う賜物があり、弱さを支え合っています。神様のなさることは本当に奇しいと思わされております。

この教会は一人のアメリカ人宣教師のおばあちゃんから始まっているのですが、この方は戦前私の母教会である洲本教会でもご主人と共に牧会されていた方でもあります。つまり同じルーツの教会に遣わされてきたのですが、そのおばあちゃん宣教師の弟子に当たる牧師が戦前ブラジルに渡り、アメリカの宣教チームと共にサンパウロやその近辺での日系ブラジル人への伝道へと発展していきました。



スイスJEG 30周年に想う



その実として生まれたサンパウロにあるサウーデ教会は、滝井レオナルド兄の家の近くでお父さんや弟さんも通っておられたことのある教会でもあり、私たちの教会からも日本人宣教師の夫妻を派遣していた教会でもあります。そのブラジルのフリーメソジストの教団から、日系ブラジル人とブラジル人宣教に関わっておられる先生方が70周年をお祝いするために来てくださり、共に同じ宣教師をルーツとする教会、教団同士で信仰を深めることができました。

今日本は多くの外国人の方が住むようになり、日本にいながら外国人伝道ができる時代となっています。国際結婚されたご夫婦で教会に来られる方も多くなりました。私が去年福井県越前市武生（たけふ）にある日系ブラジル人教会へと青年ミッションチームの引率で行かせてもらったのですが、市の人口の5%以上が外国人であり、日本人クリスチャン70人に対し、多くの外国人の教会が生まれており、クリスチャンの数も300人近くに登っています。

そして今日本人教会と外国人教会、合わせて九つの教会が一致して、働きを始めようとしています。ここだけではなく、日本全体で、今やさまざまな違いを超えて、一致していきよう、協力していきようという動きが始まっています。日本人の救いのため、それぞれの教会の働きのため、私の牧会の働き、家族のためにお祈りをお願いいたします。

スイスの日本人、そして日本人の配偶者や家族、日本にゆかりのあるの方々のための宣教の器として、今年創立30周年を迎えたスイスJEGがますます豊かに用いられていきますようお祈りいたします。



スイスJEG修養会での山登り（2018）

